

## 1:出席者

加藤<sup>a</sup>・大西<sup>b</sup>・岡部・片山・千葉・能登・平林・合川<sup>c</sup>・セルゲイ<sup>c</sup>・内藤<sup>c</sup>・吉田<sup>c</sup>・大塚<sup>c,d</sup>

(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

## 2:報告

- 今年度 COE 研究員は合川・大塚・セルゲイ・内藤の 4 名である。(加藤)
- 総合科学技術会議の戦略型プロジェクトに荷電粒子核反応データのデータマイニングという研究課題で応募した。4 月 1 日に文部科学省で公聴会があった。(加藤)
- IAEA センター長会議は 5 月 27 日～30 日にパリの OECD/NEA で行われる。現在、加藤とオブザーバー 2 名(大林・大塚)の参加を検討しているが、資金的な問題があり参加人数は流動的である。(加藤)
- 近江氏の研究員任期が 3 月で終了した。グラフィードシステムをインターネットで公開した。(加藤)
- 青山氏が 5 月初旬に IntelligentPad を用いた EXFOR 検索システムのデモを行う予定である。(加藤)
- 日本原子力学会年会でコーディングエディター開発に関する報告を行った。中性子データをコンパイルするグループから関心を持たれている。(大塚)
- OECD/NEA から問合せのあった D248 の数値データについて、定性的に問題がある数値テーブル数件を再読み取りした上で、OECD/NEA に送付した。(大塚)
- 2001 年度分、コーディング作業した論文は 25 編となった。うち未着手の 3 編について早急に作業開始を依頼する。一連の新グラフィードシステムが順調に稼働しはじめた。5 月の運営委員会までに一人 2 編程度ずつコーディング結果の査読をお願いする。(吉田)
- 2001 年の原子核実験の論文の分類が進行中である。(内藤)

## 3:議論

- 年次報告分担
  - ・ 巻頭言(加藤)・IAEA 会議報告(加藤)・エディター開発報告(大塚)・グラフィード使用説明書(近江)・辞書 WG 報告(能登・大塚)・評価システム開発(大西・大塚)・ND2001 報告(大林)・採録実績報告(吉田)・議事録(大塚)・業績一覧(編集委員)
- NRDF と EXFOR のコード加除訂正  
辞書 WG の提案(別紙)を承認する。
- 重複ファイルの取扱い  
1)EXFOR に登録されたファイル、2)NRDF に登録されたファイル、3)データテーブルの多いファイルの順位でマスターを決定する。財政的な目処がついた時点で原論文に当たっての検討を行う。
- 2001 年度データ動向の対象論文と反応分類法  
ビームか標的の少くとも一方がハドロンである実験を分類対象論文とする。分類は放出粒子で行う(核分裂・ $\alpha$ ・ $\beta$ ・ $\gamma$ ・重イオン・ハドロン)。
- 今年度の活動方針
  - 1) 収集・検索に加え評価(天体核・高エネルギー)を進める。
  - 2) 「原子核研究」や「日本原子力学会誌」に活動について投稿する。この他、JCPRG の国際的地位向上のために収集対象を中性子データ他に拡張にすることについても議論された。

## 4:次回

2002 年 5 月 20 日 17:30 より

## 1:出席者

加藤<sup>a</sup>・大西<sup>b</sup>・岡部・片山・千葉・能登・平林・合川<sup>c</sup>・大林<sup>c</sup>・鈴木<sup>c</sup>・セルゲイ<sup>c</sup>・内藤<sup>c</sup>・吉田<sup>c</sup>・大塚<sup>c,d</sup>

(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

## 2:報告

- 今春着任した COE 研究員について、合川には星内元素生成シミュレーションを、セルゲイにはデータ検索システムの構築を進めてもらう。(加藤)
- 応募した科研費(データベース作成費)が採択されたとの内示があった。(加藤)
- VBL におけるデータマイニングに関する議論がスタートした。(加藤)
- D1740,D1749,D1750,D1756 のコーディングについて査読委員と検討を行ない、運営委員会に諮る内容をまとめた。(鈴木・合川)
- NACRE のコピーサーバが設置された。(大林)

## 3:議論

- IAEA センター長会議に提出する年次報告について委員長案を修正の上承認した。
- コーディングの指針
  - ・ビームイオンの電荷については論文中に  $C^{6+}$  などと明示されている場合にのみ記載することとする。
  - ・天頂角が負値をとっている、本来整数値をとるはずの値がそうでない、本来取るべき値と違う値になっている、など得られた数値読取に明らかな問題がある場合は、マージ後にコーディング者が修正する。
  - ・ある観測された量とそれを積分した量が示されている時は内挿を理論とはみなさない立場から積分量も合わせてコーディングすることを認める。
- EXFOR に変換できなかったデータ  
NOSUBENT 扱いのものが変換結果に混じる時に、変換できなかった理由を何らかの形で変換されたファイルの中に記載することを検討をする。

## 4:次回

2002年6月24日 17:30より

## 1:出席者

加藤<sup>a</sup>・大西<sup>b</sup>・岡部・能登・平林・合川<sup>c</sup>・セルゲイ<sup>c</sup>・内藤<sup>c</sup>・吉田<sup>c</sup>・大塚<sup>c,d</sup>

(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

## 2:報告

- IAEA センター長会議に 5 月 27 日-30 日に出席した。我々のセンターでは年次報告とともに、コーディングエディタ HENDEL と数値読取システム SyGRD の開発報告を行なった。本会議で我々のセンターに課せられた関連の主な事項は以下の通り。
  - ・採録分担について現在担当のセンターが十分に責任を発揮しない場合は IAEA が他のセンターに採録を依頼することとなった。
  - ・今まで中性子関係文献のみを対象としていた CINDA が荷電粒子反応も対象とすることになった。我々がどの文献のどの部分に関して責任を持つかを決めて報告しなければならない。
  - ・研究計画を立案する上で加速器のリストを作成する必要がある。我々で日本の加速器のリストを作成することになった。
  - ・EXFOR の素粒子コードを整備する部会を立ち上げることになり、当センターから加藤と大塚が加わることとなった。  
(加藤)
- 今年度 VBL に関して招聘するガルピッツ氏(半古典論)が 6 月 27 日に来日されることとなった。(加藤)
- Chukreev から問い合わせのあった PR/C 62(2000)014610-7 Fig.7 に含まれる図の読み取りを SyGRD で行なって送付した。これを受けて Chukreev から送付された実験値を我々の読取結果とともにプロットした。両者は概ね良い一致を示している。(大塚)
- 我々が提案しセンター長会議で議論されたコードのうち、MUB/SRGEVC, AP が承認された。一方 NSF をはじめとしたスピン関係の一連のコードは D1735, D1755 の該当データが直接観測量でないことから、提案を取り下げた。(大塚)
- jcpgr の NRDF のデータ検索のデータを更新した。現在 D1723 まで検索対象となっている。(大塚)
- 昨年度の年次報告は査読者の協力を得て原稿が完成した。今週末か来週頭に校正にかかる予定である。全ページ数は 138 ページを見ている。(吉田)

## 3:議論

- CINDA に対する当センターの責任範囲に関して以下の意見が委員からでたが継続議題となった。
  - ・NSR が採録範囲としている雑誌はカバーする。
  - ・原研が採録対象している 100 余タイトルを参考にする。
  - ・電子媒体で入手可能か否かというのが一つの基準になる。
  - ・日本にないと扱いが困難なものを対象にする。
  - ・当センターが変換対象としているものを対象にする。
- 新規コード
  - ・以下の申請コードが承認された。  
MB/MSR, THTL-MIN, THTL-MAX, DELTA-INC-ENGY-CM, DELTA-ENGY-EMT-CM, MEV\*B, MAG+PLST-SCT+TOF+LIQID-SCT
  - ・天文学的 S 因子関係のコードは ASTRSFACTR で適切かどうか作業部会での継続議題とする。

## 4:次回

2002年7月22日 17:30より

## 1:出席者

加藤<sup>a</sup>・大西<sup>b</sup>・岡部・能登・平林・合川<sup>c</sup>・セルゲイ<sup>c</sup>・内藤<sup>c</sup>・吉田<sup>c</sup>・大塚<sup>c,d</sup>  
(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

## 2:報告

- シグマ委員会に 7 月 18 日に出席した。我々に関連した話題は
  - ・ JENDL3.3 が公開され新段階へ移行
  - ・ 来年度天体核データ評価 WG が発足
  - ・ 原研・サイクル機構統合後の核データ活動の維持
  - ・ 国際情勢 (前運営委員会での報告の通り)我々の進展として、ウェブ・エディタが完成し、EXFOR への変換が同時に行なわれるようになったこと、検索の利用件数が前年並であることなどを報告した。(加藤)
- 複数の検索結果を重ねてプロットできるツールの開発にセルゲイと内藤が着手した。(大西)
- 辞書 WG でコードに関して運営委員会に対して以下の提案がまとめられた：
  - 1) 新規コード  
DELTA-RUTH-RATIO, EXC-ENGY-INTRM, RIA, RPA, DELTA-DSIGMA/DOMEGA/DP, SQNTL-RCT, ASTR, ASTR-SPEC-FCTR, DELTA-ASTR-SPEC-FCTR, UB/SR\*\*2, UB/SR\*\*2/KEV
  - 2) 同義コード  
STRNGTH-FUNCT と STRGTH-FUNCT は両方とも展開形が strength function である。前者を Obsolete 扱いとする。
  - 3) SIGMA と ...-XSECTN  
SIGMA はヘディングに用い、...-XSECTN は PHQ に対して用いる。  
(能登・大塚)
- 2001 年度年次報告書が完成した。(吉田)
- 今年度上半期の採録予定論文は 34 件を予定している。(吉田)

## 3:議論

- 今年度の活動計画  
提案された活動計画を承認した。査読者は 1 ヶ月概ね 1 本の論文を査読する。
- 辞書 WG からの提案に対して  
提案を承認する。但し、Astrophysical S-factor の S が Spectroscopic の意味であるかどうかははっきりしないので、S-factor の部分に関しては SPEC-FCTR ではなく SFCTR というコードを W 型辞書に登録し、Astrophysical S-factor に対しては ASTR-SFCTR を V 型辞書に登録することとする。
- ...-ERR と DELTA-... の区別  
この区別について片山氏に問い合わせることとする。
- 複数の独立変数を含むグラフの採録方法  
論文の図の表現から正規化が適切と判断される場合はそのようにする。但し著者から受け取った数値データが正規化されていない時については将来の検討課題とする。
- $\gamma$  線データを採録対象とするかどうかについて  
辞書 WG で採録基準を議論して提案をまとめることとする。

## 4:次回

2002 年 9 月 30 日 17:30 より

## 1:出席者

加藤<sup>a</sup>・大西<sup>b</sup>・岡部・片山・平林・合川<sup>c</sup>・セルゲイ<sup>c</sup>・内藤<sup>c</sup>・吉田<sup>c</sup>・大塚<sup>c,d</sup>

(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

## 2:報告

- 来年度の科研費の申請書類が完成した。研究分担者にチェックをお願いしたい。(加藤)
- TRANS.E020 の最終版を IAEA に送信した。この最終版は、E0691, E0769, E0776, E0780, E0835, E0868, E1144, E1145, E1187, E1258, E1359, E1379, E1412, E1424, E1441, E1454, E1456, E1458 の計 18 編の削除(重複)と、E1555, E1700-E1710 の計 12 編の新規登録からなる。これに関する幾つかの EXFOR の新規コードが承認された。(大塚)
- 当初計画の採録対象論文 34 編のうち 9 編を前回の委員会の議論を踏まえて当面の作業対象から除外し、残り 25 編の作業を進めている。このうちの 2~3 本以外は採録に着手、うち 10 編はチェックを、うち 6 編はレフェリをそれぞれ終了した。(吉田)
- 辞書 WG でコードに関して運営委員会に対して以下の提案がまとめられた：
  - 1) 新規コード  
SIGMAN, SIGMAO, SIGMAP, XIO, XIN, 2JPNSAI, NB/SR, DELTA-DSIGMA/DE, CEREN, MAG+PS+CEREN, MB/SR/(GEV/C), NB/SR/MEV, DELTA-ENGY-EMT-1-LAB, DELTA-ENGY-EMT-2-LAB
  - 2) 同義コード  
- SPIN-CORRL と SPIN-CORRL-PARA  
両方とも Spin correlation parameter を指す。前者を Obsolete 扱いとする。  
-MB/(SR+MEV/C) と MB/SR/(MEV/C)  
両方とも同じ単位である。前者を Obsolete 扱いとする。(大塚)
- 2002 年実験論文動向調査のうち Physics Letters B (Vol.497-523) の部分が終了した。今後内藤が Nuclear Physics A の調査を、セルゲイが Physical Review C の調査を進める。(内藤)
- 前回議論のあった...-ERR と DELTA-... の区別は実験情報か数値情報という区別ではなかったか。(片山)

## 3:議論

- 査読結果等の検討  
D1760：前回の議論に基づき鈴木氏に正規化の作業を依頼する。  
D1770：INC-ENGY-LAB が EXP と DATA で重複、DET-PARTCL と EMT も重複→辞書 WG で議論。  
D1772：特に問題なし。  
D1773：DSIGMA/DOMEGA/DE に対応した PHQ を ENGY-SPEC ではなく例えば DBL-DIFF-XSECTN とでもした方が良くはないか→辞書 WG で議論。  
D1781：特に問題なし。  
D1783：Fig.1 の"Typical proton spectra"は採録しない。
- 辞書 WG からの提案に対して  
提案を承認する。但し、CEREN は CRNKOV とする。また前回の辞書 WG 後の申請新規コード DELTA-ENGY-GAMMA, DELTA-K-CONV-COEF, MEV/C\*\*2, BIND, BIND-ENGY, DELTA-BIND-ENGY を運営委員会として承認する。
- NRDF のデータの利用規約  
著作権の範囲・再配付の可否・引用の方法などに関する記載を加えてはという意見が出た。

## 4:次回

2002年11月26日 18:30より

## 1:出席者

加藤<sup>a</sup>・大西<sup>b</sup>・岡部・千葉・平林・合川<sup>c,d</sup>・セルゲイ<sup>c</sup>・内藤<sup>c</sup>・吉田<sup>c</sup>  
(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

## 2:報告

- 加藤と大塚が原研核データ研究会に参加した。大塚が”Web-based Editor for Nuclear Reaction Data”という題名で発表を行なった。(加藤)
- 原研で特別会計(高度放射線測定技術による革新炉用原子核データに関する研究開発)の打ち合せを行なった。北大では EXFOR, JENDL 等のデータを一括検索比較するツールの作成を行なう予定。(加藤)
- 2001年のデータ動向調査が学生アルバイトの協力のもとに終了した。世界の核実験論文総数に占める日本の実験論文の割合は約6%で前回(10年前)と大きな変化はない。(内藤・セルゲイ)
- 今年度の25編の作業の目処が付いた。新たに15編を加える。今後20編のレフェリが必要(1月末までに一人3,4編)。今年度対象論文 D1760-D1800のうち EXFOR への変換可能論文は40編中34編。Nucl.Instr.and Methods Aを新たに採録対象に加える。D1752, D1761, D1768, D1779, D1782がレフェリ終了。(吉田)

## 3:議論

- 年次報告書  
事業費による核データ活動は終了したが、今年度も引き続き年次報告書を出版する。
- 動向調査関係  
今年度の年次報告書に調査結果を掲載。また春の原子力学会(佐世保)と2003年IAEA核データセンター会議で内藤・セルゲイがそれぞれ報告の予定。
- 追加採録対象論文について  
15編の追加を承認。作業を進めることとする。
- 新規コード  
1) SIGMA/DPL と DELTA-DSIGMA/DPL  
DPLの表記でいいのか? Longitudinalを表すもっと良いものは?  
2) Kyy  
K<sub>yy</sub>はK<sub>yy</sub>だけの場合とK<sub>yy'</sub>の場合がある(今回の論文中はK<sub>yy'</sub>)。EXFORとの関連、両者の区別などを調べる。
- ドメイン取得について  
北大内でorgドメインが使えるかを大型計算機センターに確認。可能ならばドメインjcprg.orgを新規購入する。
- コーディング時の実験数値データ提供依頼について  
依頼するのは第一著者でなくとも良いが、原則として第一著者には依頼内容を伝える。
- Web上での検索・グラフ表示システムの紹介  
紹介された試作中のシステムに対して、  
- cgi版とJava版のうちcgi版を先行して仕上げては?  
- αバージョンを助言委員に使用してもらおう(今年度中に)、その後βバージョンを公開すれば?  
等の意見が出た。

## 4:次回

2003年1月14日 18:30より

1: 出席者

加藤<sup>a</sup>・大西<sup>b</sup>・千葉・片山・能登・岡部・平林・大塚<sup>c</sup>・内藤<sup>c</sup>・セルゲイ<sup>c</sup>・合川<sup>c,d</sup>・吉田<sup>c</sup>  
(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

2: 報告

- 特別会計「高度放射線測定技術による革新炉用原子核データに関する研究開発」において、JENDL, EXFOR のデータを統合的に検索、表示するシステムを、cgi を用いて作成することに決定した。複数のデータ形式があるので、共通形式のインデックスファイルを作成する。(加藤)
- 今年度 VBL 関連予算でコンピュータとプロジェクターを購入する。また、来年度 VBL 研究計画として、COE 研究員 4 名、Prof. Brink の招聘、希望があれば運営委員の派遣を、それぞれ申請する。(加藤)
- 北大内でドメインネーム“jcprg.org”の使用が許可された。(合川)

3: 議論

- コーディングファイルのレフェリー  
運営委員会に合わせてのスケジュールでは進行が遅いので、メーリングリストを活用した議論を活発に行うようにする。運営委員会では全員での議論が特に必要だと思われるものに限る。
- D1764, D1777 のコーディングについて  
D1764 に関連して、著者から頂いた論文にないデータを、データベースに登録する。D1777 の反応に関しては、可能な限り論文中の表現を用いることとし、不明な点は著者に尋ねる。
- コードの追加・修正・削除  
追加：DELTA-YLD, PB (picobarn), DELTA-ENGY-EMT-1-LAB, DELTA-ENGY-EMT-2-LAB,  
MAG+MWDC+CRNKOV, IC (ionization chamber)  
修正：SELF (展開型を self-backing から self-supported に変更)  
削除：SURF-BARR-DET (SBD との重複)
- 年次報告書  
これまでの継続として発行する。北見工業大学の大久保氏の修士論文(20~30 ページ)を掲載する。検索の簡易マニュアル(2~3 ページ)を掲載する。

4: 次回

2003 年 2 月 28 日 18:30~

1: 出席者

加藤<sup>a</sup>・大西<sup>b</sup>・片山・大塚<sup>c</sup>・セルゲイ<sup>c</sup>・合川<sup>c,d</sup>・吉田<sup>c</sup>

(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

2: 報告

- 特別会計報告書を作成中である。大塚氏をウィーンに派遣する。来年度特別会計は4月1日から始まる。(加藤)
- COE 研究員は合計5名を申請する。Prof. Brink, Prof. Giraud 両氏を招聘する。(加藤)
- 年次報告書を作成中である。全体で約100ページとなる予定である。(吉田)
- EXFOR の新しい辞書コードが完成した。新規粒子コードの草案を作成し、助言委員に意見を伺うこととする。(大塚)

3: 議論

- サーバコンピュータについて  
メインサーバの変更とともに、ドメインの変更等を行う。
- 新規コードについて  
提案：INCASC -MODEL(Intra Nuclear Cascade Model), PPS (Particle Per Second), ACCML (Accumulation Method)
- 議事録作成について  
可能な限り、管理運営委員会場で作成、修正し、次回の委員会で確認する。

4: 次回

2003年4月14日 18:30~